事業評価において特に優れた事業と認められた事業一覧(平成20年度助成事業)

No.	評価先団体	事業名	助成区分	基金区分	掲載ページ
1	社団法人 日本てんかん協会	てんかんのある人の自立生活を支えるための事業―地域の 社会資源の活用―	一般分	高・障	1
2	社会福祉法人 拓く	谷間の支援を障害者と地域の人でつくる事業	一般分	高・障	2
3	社会福祉法人 全国盲ろう者協会	盲ろう者地域団体の連携組織構築事業	一般分	高・障	3
4	財団法人 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会	デフリンピックへの意識高揚に関する事業	一般分	障スポ	4
5	特定非営利活動法人 ホームホスピス宮崎	安心して暮らし、安らかに看取られるためのケアの 充実に関する事業	特別分	長寿	5
6	地域生活も子ばなれもしよう会	障害(児)者の受診支援に関する研究事業	特別分	高・障	6
7	特定非営利活動法人 ウィメンズネット・マサカーネ	DVを生きのびた子どもと女性のデイサービス事業	特別分	子育て	7
8	特定非営利活動法人 子どもの村福岡	「新しい社会的養護」の研究開発・人材養成事業	特別分	子育て	9
9	特定非営利活動法人 日本アーツセンター	児童を対象とした手作り木造船航海体験と地域交流 事業	特別分	子育て	11
10	特定非営利活動法人 スマイルクラブ	知的障害者のスポーツ・運動指導に携わるボラン ティアリーダー育成事業	特別分	障スポ	12
11	特定非営利活動法人 はるな会	手作りとうふ工房事業	地方分	高・障	13
12	特定非営利活動法人 チャレンジドネットワークみやぎ	パン製造等による障害者就労支援事業	地方分	高・障	15
13	特定非営利活動法人 訪問理美容ネットワークゆうゆう	べっぴんしゃんと地域伝承料理で粋粋交流ネット ワーク構築事業	地方分	高・障	16
14	輝け「いのち」ネットワーク	社会的養護を必要とする児童の地域まるごと子育て 事業	地方分	子育て	17
15	特定非営利活動法人 BigBrothers and Sisters Movement21 School	児童養護施設等退所児童に対する居場所づくり事業	地方分	子育て	19
16	特定非営利活動法人 子どもネットワーク可部	子育て支援のネットワーク作りのための『親の時間』『親 子の時間』および『サポーター養成』事業	地方分	子育て	20
17	特定非営利活動法人 ひやしんす	精神障害者の就労支援「宅配サービス」事業	地方分	高・障	21
18	特定非営利活動法人 ワークスみらい高知	就労トレーニングのためのカフェ開設・運営事業	地方分	高・障	23
19	特定非営利活動法人 コミュニケーション支援センター ふくろう	高齢聴覚障害者生きがい対策(ミニデイサービス) 事業	地方分	高・障	25
20	子ども夢フォーラム	パパのための児童虐待抑止啓発講座 事業	地方分	子育て	27
21	特定非営利活動法人 うてぃーらみや	子育ち支援プロジェクト事業	地方分	子育て (モデル事業)	28

一般分:高齢者·障害者福祉基金

社団法人 日本てんかん協会

【てんかんのある人の自立生活を支えるための事業-地域の社会資源の活用―】

(助成金額:4,972千円)

<団体による事業の紹介>

てんかんのある人が抱えるさまざまな問題は、その人が暮らす地域で解決する必要があります。そのためには、相談を受ける人の育成が必要です。

そこで、この事業では、相談を受ける人たちがてんかんに関する理解を深めるためのマテリアルとして、「てんかん相談Q&A」と題した相談対応マニュアルを作成しました。地域の専門職をはじめとするてんかんのある人への身近な支援や相談の対応ができる人材を育成していくための、第一歩となりました。

<評価部会委員によるコメント>

3年計画の中で、初年度にコンテンツを開発し、2年目以降への展開の素地を用意している。コンテンツの中身は質が良い。ターゲットとして生活支援センターを明確にあげ、2年次にセミナー展開などを図り、また事例集積を進めて社会福祉系の相談員への支援展開を計画できている。

初年度の開発コンテンツはやや Medical Social Worker 向けになっているので、これを地域の Social Worker の実践支援に2年度以降つなげていかれることを期待したい。

<u><助成事業による成果物など></u>

- ○報告書「てんかんのある人の自立生活を支えるための事業」
- ○冊子「てんかん相談Q&A」

(団体の問い合わせ先)

〒162-0051 東京都新宿区西早稲田2-2-8全国心身障害児福祉財団ビル4階

TEL: 03-3202-5661

http://www.jea-net.jp/

一般分:高齢者・障害者福祉基金

社会福祉法人 拓く

【谷間の支援を障害者と地域の人でつくる事業】

(助成金額:7,416千円)

<団体による事業の紹介>

引きこもり、虐待、自殺、ホームレス等の制度の谷間にある人たちの問題は「無関心・孤立」であり、デートDVに悩む若者、働きづらさに落ち込む男女、子育てに苦悩する親など、生きづらさを抱えやすい社会で暮らす全ての人に共通する地続きの課題です。

この課題に対して、当研究事業では4つの視点を見いだし、支え合いあえる新しいコミュニティを創ることによって解決できるのはないか、それが今後の社会が目指す方向ではないかと考え、障害者や引きこもりの人など様々な生きづらさを抱える当事者と地域の人たちと共に様々な研修や実践を通し、コミュニティづくりのあり方について考えました。

<評価部会委員によるコメント>

地域福祉についての議論は多いが、真の住民主体の実践は、必ずしも行われているとは言えない。まさに地域に根差して、新しい方法論をもって、実践している例である。 実践の方が進んでいることを広く関係者に知らせるとともに、地域の人々にこのような取り組みが行われていることを「WAM」として発信していった方が良い。地域でこの団体は取り組んでいることに意味があり、全国普及の視点を当該団体が持つと逆に地道な取り組みが弱くなるのが「常」である。そうさせないためにも、その役割は「WAM」が担うべきである。

訴求力のあるプレゼンテーションは、事業の内容の充実があってこそ、実現したこと が分かる好事例。

<助成事業による成果物など>

- ○報告書「谷間の支援を障害者と地域の人でつくる事業」
- ○会報「ポレポレ倶楽部通信」

○DVD3枚

○小説

○リーフレット

○チラシ

○写真データDVD1枚

(団体の問い合わせ先)

〒830-0071 福岡県久留米市安武町武島468-2

TEL: 0942-27-2039

http://www.h-polepole.com/

一般分:高齢者・障害者福祉基金

社会福祉法人 全国盲ろう者協会

【盲ろう者地域団体の連携組織構築事業】

(助成金額:17,206千円)

<団体による事業の紹介>

盲ろう者地域団体の代表者が一堂に会し、盲ろう者向け通訳・介助員派遣 事業等日本の盲ろう者福祉のあり方について話し合うため、会議を行いまし た。

地域における盲ろう者リーダーの活動を支援するために、地域利用券を交付し、地域活動のために必要な通訳・介助者を派遣しました。

派遣事業の実務を担当する各地域のコーディネーターが一同に会し、コーディネーターの資質向上のための会議を行いました。

<評価部会委員によるコメント>

内容的には特に問題はない。必要なことを着実に実施しており、問題解決に向けた底力を強化するような効果を上げているため、自己評価と同じくAとした。ただしWAMへの資金の頼り過ぎから閉鎖的な活動になりがちで、外部に向けた問題提起がなされなくなっているのではないかとの危惧もある。全国大会などは企業などからの協賛努力もすべきではないかと思われる。

<助成事業による成果物など>

- ○報告書2冊「全国盲ろう者団体代表者会議報告書」
- ○「全国コーディネーター連絡会」

※点字による報告書もある

(団体の問い合わせ先)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 神保町センタービル7階

TEL: 03-3512-5056

http://www.jdba.or.jp/

一般分:障害者スポーツ支援基金

財団法人 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会

【デフリンピックへの意識高揚に関する事業】

(助成金額:3,400千円)

<団体による事業の紹介>

「音のないスポーツ」の祭典、「デフリンピック」への意識高揚に関する基盤作りの一環として、まず聴覚障害学生・児童の在籍する教育機関および競技団体等における認知度を100%にあげることを目的とし、デフリンピック啓発資材をパンフレット及びホームページの形で作成し、教育機関・競技団体を中心にパンフレット配布及びホームページの周知を行いました。

<評価部会委員によるコメント>

- ① 事業は、デフリンピックへの意識高揚を目的として、啓発資材の作成・配布、啓発資材活用セミナーの開催を実施することであった。まず啓発資材の作成は、パンフレットの作成とホームページの作成であったが、パンフレットはその意図するところが焦点が定まっておらず、もう少しデザインの面でも工夫があってよいと思われた。ホームページは(財)全日本ろうあ連盟のホームページに「デフリンピック啓発ウェブサイト」として立ち上がっており、デザインも視認性も良く仕上がっている。
- ② これらの啓発資材の政策方針を決定するために委員会を設定し、3回の委員会を開催しているが、回数も委員構成も適当と認められた。ただしパンフレットのデザインや作成にはもう少し専門家に任せるなどして、より工夫があってよかったと考える。
- ③ デフリンピック啓発資材活用セミナーを1回開催しているが、参加者見込みが50人に対して、実施時の参加者が85人と人数は多かったものの、役員や関係委員をカウントしての数ということで、本来参加を期待した教育関係者の参加が少なかったということが残念であった。ろう学校関係者の間でもデフリンピックについての理解も少なく、ましてや小学校の難聴学級、さらには障害者スポーツ指導員養成課程認定校(大学・短大・専門学校)等への周知も今後検討されてもよいのではないかと感じた。

全国各地で実施されている障害者スポーツ指導員の養成研修会においても「聴覚障害者」のスポーツ指導に関するカリキュラムはまだまだ不十分であり、また保健体育教員養成課程をもつ大学等のカリキュラムにおいても障害のある児童・生徒に対する指導内容について科目が必修化されていないなど、本事業の今後の展開はさらに広がりをもつことが期待できる。

<助成事業による成果物など>

○パンフレット

(団体の問い合わせ先)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町130 SKビル8階 TEL:03-3268-8847 ※お問い合わせの際は、FAXにてお願いします FAX:03-3267-3445 http://www.jfd.or.jp/ (全日本ろうあ連盟のHP)

特別分:長寿社会福祉基金

特定非営利活動法人 ホームホスピス宮崎

【安心して暮らし、安らかに看取られるためのケアの充実に関する事業】

(助成金額:5,000千円)

<団体による事業の紹介>

暮らしの根幹をなす高齢者の「食」が危ういとの認識から、高齢者の食生活調査を2地域で実施しました。安心して暮らし、安らかに看取られるために、「かあさんの家」の看取りの経験を活かし、ケアの充実に関する教育プログラムを実施しました。地域住民と大学、医療機関をコーディネートし、NPOとして協働事業を展開することによって、これまでになされなかった手法でまちづくりに貢献することができ、また世代間交流が図られ、次世代への命の継承へとも繋がりました。

<評価部会委員によるコメント>

生命を維持するための最も基本的な要素である"食"に着目し、地域の自治体や社会福祉協議会、民生委員、医療機関、研究機関など社会の色々な組織と協働して横断的に事業を展開したところの意義は大変大きい。ややもすると同じような事業を各組織がそれぞれ縦割り的に独立して実施されることが多い中で、それを結びつけたこのNPOの果たした役割は大いに評価すべきと思われる。旧来のしがらみにとらわれないNPOならではの活動であり、このような取り組みを多くのNPOに期待したい。全国各地にこのような取り組みを発信してもらいたい。また、報告書の内容も大変充実したものになっている。

ただ、健康状態を客観的に判断する指標として用いられる、いわゆる正常値というものは往々にしてほとんど一般成人の値を基にして作られている事を考慮に入れて高齢者の状態を判断しなければならない。今後は、できるだけ多くの元気高齢者の協力の下、いわゆる高齢者の正常値というようなものも提案してもらえるとありがたい。

<助成事業による成果物など>

- ○リーフレット
- ○DVD1枚

(団体の問い合わせ先)

〒880-0913 宮崎県宮崎市恒久2丁目19-6

TEL: 0985-53-6056

http://www.npo-hhm.jp/

特別分:高齢者·障害者福祉基金

地域生活も子ばなれもしよう会

【障害(児)者の受診支援に関する研究事業】

(助成金額:4,571千円)

<団体による事業の紹介>

知的障害児・者が必要な医療を受けられない、または受けにくい状況を改善するため、医療機関及び知的障害児・者の保護者のヒアリング調査を実施し、受診のポイントをまとめました。受診のポイントはパンフレットにまとめ、都道府県及び障害福祉施設等に配布を行っているほか、ホームページにも掲載しています。また、医療関係者と障害児・者の保護者の相互理解や工夫の共有が必要であり、報告会を開催しました。検討の経過及び報告会の内容は報告書にまとめています。

<評価部会委員によるコメント>

医療従事者と患者間の良好なコミュニケーションは適切な診断、治療のために不可欠である。しかし現実においては、このコミュニケーションが必ずしもうまくいっていない事例が多々みられ、訴訟にその解決を委ねる例も多くなっている。こういった現実は、医療者にとっても極めて不幸なことである。まして、障害を持った方の場合、正確に自分の不具合を伝えられない可能性があり、コミュニケーションをとる際、一般人と比べ、より高いハードルがある。このような「困難」を相手の所為にするのではなく、どうすれば医療者とよりよい関係を築けるか、障害者の当事者団体や家族による集いや研修会を持ち、ヒアリングを行ってわかりやすいパンフレットにまとめた。

医療者にとっても、また障害を持たない一般人にとっても、より良い医療にするための大変有意義なパンフレットになっている。セミナーにおいては色々な立場の方の多数の参加(113名)があり、また地元紙に取り上げられるなど地域への広がりも認められる。

今後はこのような活動を全国に広げられるよう期待する。

<助成事業による成果物など>

○報告書「知的しょうがいを持つ人がより良い医療を受けるために」
○小冊子

(団体の問い合わせ先)

〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1階

TEL: 022-727-8730

http://www.clc-japan.com/kobanare/index.html

特別分:子育て支援基金

特定非営利活動法人 ウィメンズネット・マサカーネ 【DVを生きのびた子どもと女性のディサービス事業】

(助成金額:5,000千円)

<団体による事業の紹介>

大人には様々なプログラムに登録し定期な外出の習慣と家事の技術習得、 手仕事を介してコミュニケーションスキルの向上、仲間づくりを行います。 実施状況として充実したプログラムに多くの女性が参加して楽しく過ごし生 活の向上につながっています。子どもはDV環境にあった子どもが「子ども」 として存在できる場や機会を尊重されながら過ごす場と支援を行います。実 施状況として子どもたちが遊びを自分で選ぶことなどを通して毎回楽しく通 いました。

<評価部会委員によるコメント>

DV被害者のためのシェルターの取り組みは、広がりを見せているが、入所期間は3週間程度であり、困難を抱えた母子の退所後の生活再建が大きな課題になっている。

ウィメンズネット・マサカーネの取り組みは、シェルターを出た女性と子どもの支援 プログラムとして、デイサービス事業を開発し大きな成果を上げている。シェルターを 出た母子で日常生活に困難を抱え、引きこもっている母親が、自分で選んだ楽しいプロ グラムに参加することで、外出習慣を身に着け、楽しみの場であり、技能を身につけ、 子どもや自身を語る場になっている。選択したプログラムの日以外でもいつでも立ち寄 れるよりどころになっている。

子どものプログラムも週2回2時間であるが、送迎が行われ、学生ボランティアの参加で、子ども2人にスタッフ1人の割合で、個々の子どもに目が行きとどく体制が組まれている。子どもは2年もすると学校や、近所に友達ができ、ここから卒業して来なくなるという。この事は、虐待を受けていた子どもがこのデイサービスを通して自立していく効果が確認できる。

これらの事業の主なスタッフが当事者であった人たちであり、有力な担い手に育っていることも評価できる。社会資源の活用、行政をはじめとした多くの機関団体との連携も事業を通じて確実に築かれている。ニーズに応じ、保証人、住宅確保、お金の管理など様々なサポートを作り出している。これらの活動を、北海道のネットワーク、全国の

ネットワークを通して報告、広げる取り組みもなされているすぐれた取り組みである。

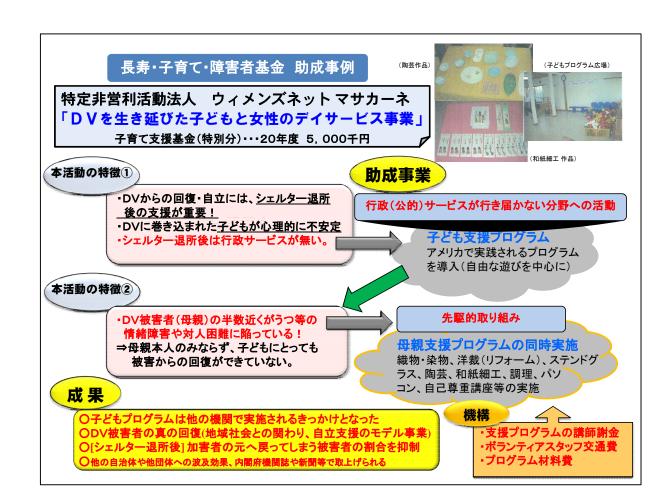
<助成事業による成果物など>

○チラシ

(団体の問い合わせ先)

〒051-0011 北海道室蘭市中央町1-1-2

TEL: 0143-23-4443



特別分:子育て支援基金

特定非営利活動法人 子どもの村福岡

【「新しい社会的養護」の研究開発・人材養成事業】

(助成金額:5,000千円)

<団体による事業の紹介>

「家族と暮らせない子どもたち」のための「子どもの村」設立を目標として、SOSキンダードルフの理念に学び、「愛着の絆」・「永続的な支え」を核とした「地域に支えられる社会的養護」のプログラム開発及び人材養成を行いました。また、わが国で今後求められる「地域養育ネットワークづくり」や「社会的養護の社会化」をめざし、市民ネットワークづくり、専門家・行政・企業の協働の構築を図りつつ、市民公開フォーラムを開催しました。

<評価部会委員によるコメント>

国や行政の責任とされがちな「社会的養護」の市民化、社会化をめざし、家庭的養護と専門的ケアとを有機的に結び付けようとする社会的実験である「子どもの村福岡」設立を進める活動の一環として、公開フォーラムの開催、人材育成のための研修事業等に対しての助成である。

企業や地域社会の深い理解を得ようとする意図も込められており、社会的養護の社会化をめざす活動の意義は大きい。フォーラム開催も、企業人の直接参加が少なかった(レセプション等には参加)ほかはほぼ成功しており、報告書もまとまっていて読みやすい。厚労省の社会的養護担当課長もパネリストとして出席しており、国の関心も高い。さらに、その成果はメディアにも取り上げられ、千葉県や日本社会事業大学等においても同種の企画がなされるなど波及効果も見られている。目的がやや子どもの村福岡の設立に特化されすぎている嫌いはあるが、その試みこそが活動の集大成であることを思うとき、この大会が、子どもの村福岡実現のための礎となったことは大きな意義があったといえる。

また、今回の子どもの村福岡設立準備自体が研究開発ととらえられ、システム・管理、研修企画・実施、建築・管理、地域協働の4チームに分かれて課題整理や検討、実践が進められている。研修事業は、育親(里親)などの担い手の育成とともに企業や地域社会の深い理解を得ようとする意図も込められており、その意義もまた大きい。また、研修事業を通じ、育親候補の養成も進み、その成果が期待される。大きな意義を有する事業の準備を加速させる重要な助成となったといえる。

こうした実践活動の結果、子どもの村福岡は、2010年4月の開村をめざして、市民、 行政、企業、専門家の恊働でいよいよ建築が始まることとなった。

ただ、目的が子どもの村福岡の設立に特化されすぎているため、研修事業そのものの報告書が十分でなく、平成21年度から国の制度として導入された各種里親研修のモデルとなるであろう本事業の実際が、十分に取りまとめられていないのは残念である。団体として取りまとめる意義は認識しているものの、現在は子どもの村開村に向けての準備を優先せざるを得ないため、いずれは、育親(里親)育成までのプロセスや、企業や行政と市民との協働のプロセスを取りまとめていただけることを期待したい。そのことが、貴重なノウハウの積み重ねを全国に広げる特別分助成の意義を増すことにつながるであろう。

<助成事業による成果物など>

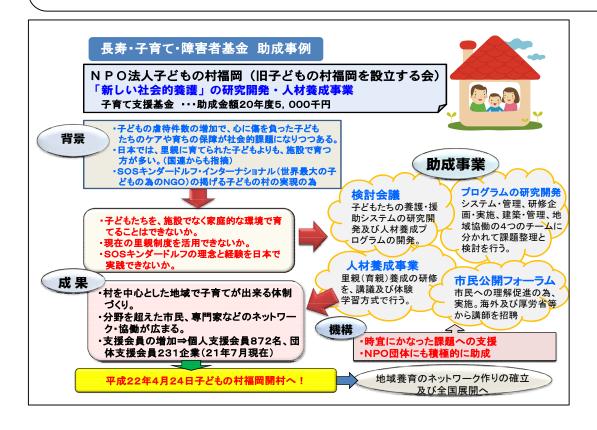
- ○市民フォーラム「子どもにやさしいまちづくり報告書」報告集
- ○チラシ
- ○写真データDVD

(団体の問い合わせ先)

〒810-0042 福岡県福岡市中央区赤坂2-3-1 2階

TEL: 092-737-8655

http://cv-f.org/



特別分:子育て支援基金

特定非営利活動法人 日本アーツセンター

【児童を対象とした手作り木造船航海体験と地域交流事業】

(助成金額:4,996千円)

<団体による事業の紹介>

「自らの手による物作り」が児童の心に与える効用に着目した、行政や学校、大学等子育て支援に取り組んでいる団体と連携を取り異なる地域の児童との交流を行い友情を深めるためサポートを実施することを目的としました。

<評価部会委員によるコメント>

2年にわたる事業で、初年度は船の建造を、2年度目はその艤装と仕上げを行い、上流と下流の子どもたちの交流を行った。多くの困難が予想されるプロジェクトに挑戦し、着実な準備態勢のものに大きな成果を上げることができた。アートイベントとしても興味深いので、ビデオ編集で記録し広めてほしい。初期投資としての舟の建造ということもあってコスト高になったのはやむを得ない。この投資を、今後どのように効果的に活用するかがカギになる。

<助成事業による成果物など>

- ○報告書
- ○パンフレット
- ○小冊子

(団体の問い合わせ先)

TEL: 03-3292-1941

http://nippon-artscenter.com/

特別分:障害者スポーツ支援基金

特定非営利活動法人 スマイルクラブ

【知的障害者のスポーツ・運動指導に携わるボランティアリーダー育成事業】

(助成金額:4,979千円)

<団体による事業の紹介>

知的障がい者(児)のスポーツ・運動指導に携わるボランティアの育成環境を改善することを目的とし、各領域の専門家からなる委員会を設置してボランティアマニュアルの作成をしました。また募集方法を充実するためにHPの作成、ポスターとチラシを各市町村、大学、高校、各専門家とのネットワークを構築して配布し募集を行いました。さらに知的障害をもつ子も参加できる「運動が苦手な子の教室」で研修を行い、教室の安全性の確保のためにCPR講習会を行い資格を取得。活動に参加したボランティアの意識高揚につなげるために体験発表会を開催しました。また事業の普及のために報告書を作成し関連団体へ配布しました。

<評価部会委員によるコメント>

~研修会等の開催について~

- ○120名ものボランティアの参加を得て、研修会を予定通り実施したことは評価でき、 またその内容もよく検討されている。
- ○研修をOJTで行い、募集から育成もよく検討されている。
- ○残念ながらボランティアマニュアルの作成が遅れ、研修に十分活用されなかったこと は課題が残るが、今後の研修に活用できるものであり、期待したい。
- ○ボランティア育成後も体験発表会を行い、報告書を作成し、事業の内容をより広く知らしめる工夫がされている。

~マニュアル等の作成について~

- ○ボランティアマニュアルは作成されており、その内容も専門家の意見も取り入れよく 検討されたことが伺える。
- ○残念ながら、内容の難しい部分が含まれており、内容の統一が検討されるとなおよい ものになったと思われる。
- ○検討の結果、内容を少なくしたと報告されているが、もう少し実践の部分のボリュームがあってもよいと思われる。

<助成事業による成果物など>

○ポスター

(団体の問い合わせ先)

〒277-0858 千葉県柏市豊上町23-29

TEL: 04-7169-4183

http://smile-club-npo.jp/

地方分:高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人 はるな会 【手作りとうふ工房事業】

(助成金額:2,000千円)

<団体による事業の紹介>

障害者就労訓練と雇用の確保を目的に、豆腐製造業者からの指導の下、「手づくりとうふ工房」を設立。道産素材と手づくりにこだわり、ラッパを吹きながら引売りを行うことで、地域の防犯効果もあり、住民に受け入れられつつあります。これら一連の体験や様々な顧客とのふれ合いは、喪失体験の大きい精神障害者にとって、仕事への誇りと自信に繋がり、リカバリー効果も大きかったと思います。

<評価部会委員によるコメント>

障害者自立支援法により、自分たちの今後を考え継続できる仕事を企図した。精神障害者の就労と地域生活の支援のために自主製品の「豆腐」に着目し、半加工(豆乳を仕入れて成型)ではあるが手作り豆腐をつくり、店舗を構えると共に、地域にラッパを吹いて引き売りをしている。このことで精神の障害者の賃金はそれまで同 NPO で取り組んでいた内職では1万円(月額)を超えるのが最大だったが、一番高い人では2万円を超えるようになった。なによりも、働いている人からのヒアリングでは「内職と違って社会と近くなった。お客さんの対話、接客できるのがやりがいがある。1年前まではお客さんに声をかけることすらできなかった。豆腐は奥が深い」とやりがいと、この仕事を通じて地域の人との交流や、自信につながっていく話を聞くことができた。店舗開業に当たっての改修費が機構の助成でできたということで、改修に当たっては合い見積もりを取るなどの工夫をしている。

また店舗デザイン、ロゴマークなど豆腐のブランド化を考え、実行するなど「障害者の福祉」的な店作りではなく、地域で他店と競争できる店作りを考え、根付いてきている。店があることでNPO法人への理解が得られるようになったという。

また地域の高齢者や子どもたちが集まる場ともなり、今後は子どもと親を対象に「手作り豆腐」のイベントをしたいと、事業の発展が期待できる。

また子どもたちが何かあったときに駆け込める防犯効果の役割も担えそうで、今後を 期待したい。

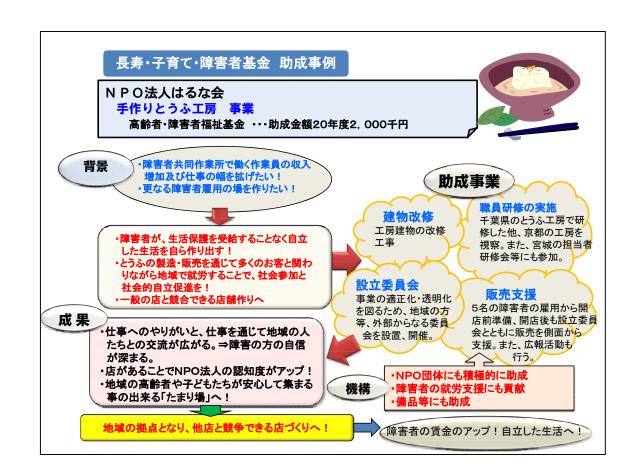
<助成事業による成果物など>

○チラシ

(団体の問い合わせ先)

〒063-0814 北海道札幌市西区琴似4条7-1-47

TEL: 011-641-0086



地方分: 高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人 チャレンジドネットワークみやぎ 【パン製造等による障害者就労支援事業】

(助成金額:2,000千円)

<団体による事業の紹介>

地域活動支援センターが訓練給付事業に移行し、障害者の自立に向けた活動を行うに当たり、その基本的な条件として工賃の引き上げが大きな課題となっておりました。当作業所の活動の大きな部分は農業ですが、作業所全体の基盤整備を進める中で、工賃引き上げの生産手段としてパン等の生産設備(スチームコンベクション)の導入を図り、パンや干ヤーコン芋等の製造販売による収益力の向上を目指しました。

<評価部会委員によるコメント>

- ○自己評価は、普通の水準という認識をされているが、全般的にこの機材を有効活用しようとする意欲に満ち、創意工夫されている。
- ○健康志向の高まっている社会的背景とも伴い、ヤーコン茶がヒットし、この機材活用 により量産が可能となり収益も将来的には期待でき、障害者自立支援につながってい る。
- ○パン製造も受注して焼くというスタイルをとり、ムダを省いている。
- ○機材は利用者の食事等にも利用され、商店等のみあたらない地域状況にあってよい活 用方法がとられている。
- ○作業所も清潔であった。

(団体の問い合わせ先)

〒981-3217 宮城県仙台市泉区実沢字湧上り屋敷1-1

TEL: 022-777-3616

http://www3.ocn.ne.jp/~cnm/

地方分:高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人 訪問理美容ネットワークゆうゆう

【べっぴんしゃんと地域伝承料理で粋粋交流ネットワーク構築事業】

(助成金額:1,842千円)

<団体による事業の紹介>

高知県東部8市町村10地域で地域高齢者支援団体との連携活動で「べっぴんしゃん美容講習会」の実施と「地域伝承料理講習会」と調査活動を実施して来ました。美容講習会では閉じ篭りの方が「初めて参加して気持ちが晴れました。次回も参加します。」とありました。地域で暮す高齢者に美容講習と伝承料理交流会で249名の参加があり高知県東部地域での新たな交流ネットワークを築く事が出来ました。

<評価部会委員によるコメント>

訪問理美容のNPOが、着付け、メイクアップの「べっぴんしゃん」事業で高齢者の社会参加交流を行うほか、伝統料理交流会を開催、「ふれあいサロン」活動の実態調査の3本立ての事業で、盛りだくさんであったが全て実行した。しかも休業中のエステサロンを新たに運営することや「ふれあいサロン」活動の委託を自治体から依頼されるなど地域との交流や波及効果も上がっている。過疎地域での高齢者の引きこもりを防止して、世代間交流にも役割を果たしていた。継続発展していく意思も強く、今後が楽しみである。

ただ「ふれあいサロン」の実態調査は調査者を頼んで実施し、調査項目、依頼状などにもう少し配慮が必要かと思われる。広報や成果をまとめ次につなげていく力もあり、今後このNPO活動が地域の起爆剤になることを期待したい。

<助成事業による成果物など>

○報告書
○チラシ
○写真

○本:東部に元気ときれいの風を!

べっぴんしゃんと粋粋伝承料理交流ネットワーク事業

(団体の問い合わせ先)

〒781-8104 高知県高知市高領3-1-58 谷岡ビル2階SCサロン内

TEL: 088-861-3644

地方分:子育て支援基金

輝け「いのち」ネットワーク

【社会的養護を必要とする児童の地域まるごと子育て事業】

(助成金額:1,962千円)

<団体による事業の紹介>

虐待を受ける等社会的養護の必要な児童を西和賀地域まるごと活用しながら子育て支援していく取り組みを実施しました。具体的には、首都圏の児童 養護施設の子どもたちの通年でのホームステイ事業、更にはこれからの地域 養護のあり方を研究する事業を実施してきました。これらを通して地域での 子育て支援体制が確立されてきました。

<評価部会委員によるコメント>

虐待を受けた子どもたち等、社会的養護が必要な子どもたちを、地域の自然、人、文化を生かし、地域全体で受け入れ養育する意欲的な実践であり、きちんとした成果を上げ、今後さらに取り組みをすすめ、活動の拠点となるファミリーホーム設置する将来構想も描いている。過疎地であるが、自分たちで命を守った村としてよく知られた地域であり、地域と住民が培ったものを活かし、子どもたちを受け入れる取り組みは、地域の高齢者が新たな役割を見出し地域を活性化する可能性も広がっている。関東方面から参加する養護施設の子どもたちは4泊5日で古民家で都市では経験できない自然を生かした本物の経験をし、県内の施設の子どもたちは、1泊2日で地域の住民の家にホームステイし、家庭を経験するという2つのプログラムで運営されている。プログラムには施設、行政機関、大学、ボランティア、住民等が参加し、ネットワークが構築されている。地域にホームステイを受け入れる家庭が増えている。将来さらに増やす計画があり、受け入れ家庭や、プログラムを企画支援する中心になるファミリーホームを構想し地域全体で要援護児童の養育にと入り組もうとしている。

しっかりした構想と研究、中心になるすぐれた人材がいることで確実な成果を上げている。この取り組みを広げる取り組みも様々な機会を通して行われている。活動は注目されマスコミなどでたびたび取り上げられている。

地域全体で社会的養護が必要な子どもたちを受ける道を切り開いた画期的な取り組みである。

<u><助成事業による成果物など></u>

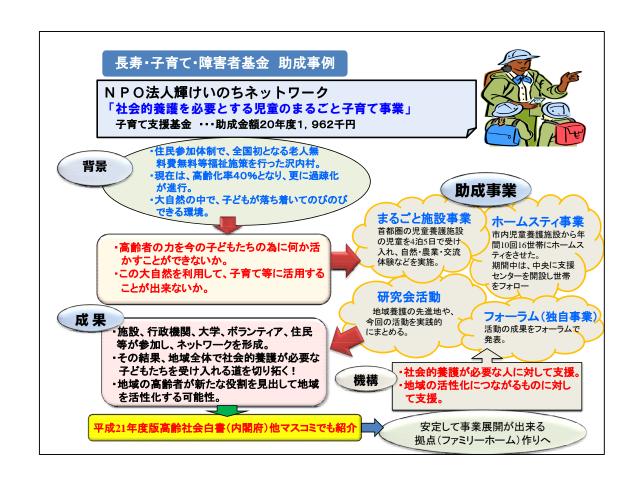
○報告書 ○冊子「いのちの作法-沢内「生命行政」を継ぐ者たちー」

○チラシ ○リーフレット ○パンフレット

(団体の問い合わせ先)

〒029-5617 岩手県和賀郡西和賀町沢内字長瀬野19地割49-16

TEL: 0197-85-3273



地方分:子育て支援基金

特定非営利活動法人

Big Brothers and Sisters Movement21 School 【児童養護施設等退所児童に対する居場所づくり事業】

(助成金額:547千円)

<団体による事業の紹介>

進に寄与します。

児童養護施設に入所している児童は、義務教育終了後就学しない場合、施設を退所して自活しなければなりませんが、生活力の弱い児童が就職し自活することは非常に困難で、軌道に乗るまで大人のサポートが欠かせません。そこで、対象児童に安心できる居場所「わだちの家」を提供し、ミーティングやカウンセリング等を実施することにより精神的な拠所を確保し、調理体験を通じて就労への意欲を向上させることにより、児童の社会的自立の促

<評価部会委員によるコメント>

BBS運動のなかで気づいた問題行動のある少年の背景に関する知見から家庭的かつ従来の社会的擁護としての児童養護とはことなるアプローチにより退所後の居場所作りのための第一歩として本プロジェクトを開始している。伝統的な児童養護施設の延長としての自立援助ホームとは異なるタイプの試みとして注目され、またBBS運動をはじめ若者たちがかかわる児童分野の新たな活動領域を切り開いている。調理体験の形は変更したものの、それ以外については当初の1名の退所者への対応であったのが、最終的には5名となり順調に推移したといえ、少ない助成額でこれまでしっかりと事業をおこなっていることをみると、コスト・パフォーマンスというよりも、ベストバリューを実現しているともいえる。

執行も適切である。

<助成事業による成果物など>

○リーフレット

○会報「わだち通信」

○写真データDVD

(団体の問い合わせ先)

〒640-8411 和歌山県和歌山市梶取127-6 (自立援助ホーム「わだちの家」)

TEL: 073-419-0888

http://space.geocities.jp/wadachinoie/home.html

地方分:子育て支援基金

特定非営利活動法人 子どもネットワーク可部

【子育て支援のネットワーク作りのための『親の時間』『親子の時間』および 『サポーター養成』事業】

(助成金額:1,058千円)

<団体による事業の紹介>

昨年度に引き続き講師を招聘して「親の時間」を開催し、互いに「聞きあう」ことや安心して話すことのできるコミュニティとしての役割が明確になりました。また、「親の時間」に取り入れられている手法である「再評価カウンセリング」の基礎講座を実施することにより、スタッフのスキルアップを図り、「親の時間」のリーダー養成に役立てることができました。

<評価部会委員によるコメント>

本事業は、子どもの育ちや保護者の子育て支援を行う団体が、保護者の当事者能力を高めるための支援手法の修得とそのスキルを活用した教室の開催、実践とスタッフの援助者としての力量を高めるための講座を同時並行で進めた複数年事業である。

1年次目にいくつかの活動を実施して継続的に取り組むべき活動を定め、2年次目にはそれを「再評価カウンセリング」に焦点化して、事業(親の時間)実施とスタッフ育成とを同時進行させている。それによって、事業実施にともなうスーパービジョンを講師から受けることもでき、事業自体の進行に有意義に働いている。複数年助成の効果が発揮された事例であるといえる。遠方から講師を呼んで事業を行ったり支援手法を講師から学ぶだけでなく、受講したスタッフが自ら支援者となって「親の時間」活動を開始しており、講師によって蒔かれた種が確実に実を結びつつある事業である。助成終了後も自主事業として継続されており、また、スタッフの力量アップにもつながっている。

報告書も、カウンセリング事業報告という守秘義務上の限界を有しながらも、その成果を伝えようとする工夫がみられている。ペアレンティング・プログラムの開発・普及や子育て支援者の支援手法の一つとして、今後の動向も注目される。

これからの助成事業は、子育ち・子育て支援の場や活動の広がりを支援するだけでなく、それぞれの支援者にマッチしたプログラムや支援手法の開発・定着を支援していくことも大切であり、そのためには、比較的じっくり取り組むことのできる複数年助成が有効であることが確認できた事例であった。

<助成事業による成果物など>

○チラシ

(団体の問い合わせ先)

〒731-0221 広島県広島市安佐北区可部4-10-8 石田ビル2階

TEL: 082-815-1530

http://www.konetkabe.npo-jp.net/

地方分:高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人 ひやしんす

【精神障害者の就労支援「宅配サービス」事業】

(助成金額:2,000千円)

<u><団体による事業の紹介></u>

喫茶店の立地する地域は高齢化が進展し独り暮らしの方等が多く、出前に併せて「簡単なサービス(買い物・家事援助など)や安否確認」の要望があり、「宅配弁当サービス」事業を始めました。

働くメンバーである精神障害者がそのサービスを主体的に行えるように、 介護講習会や実施指導・施設見学会などを実施しました。

<機構事務局によるコメント>

- ○精神障害者等の自立生活を目指す活動として、精神科病院内の喫茶店の開業に始まり、現在の取り組みまで徐々にステップアップしてきている。今回、当事者の自立生活支援という目的に加えて、事業の実施により、地域の理解や自治会を中心とした地域社会との絆が深まっていることは注目すべき点である。障害者の自立支援事業を運営するに当たっては順調に遂行できている一例といえる。(=地域にソフトランディングできた例)
- ○当該 NPO 法人は、精神障害者(当事者)や作業療法士の任意グループに端を発しているが、法人化後も同様のメンバーで活動していることから、理事長をはじめ法人役員には精神障害の当事者が多い。障害者の自立支援という点においては、喫茶店の調理人・配達人というだけに止まらず、NPO 法人運営や今次事業の企画等にも参画していることは、自立支援・就労支援の1つの重要な方策となっている。
- ○核家族化の進展といったことに象徴されるように、現代社会においては、各家庭のプライバシー保護という点を非常に重く感じる家庭も多い。その一方で、「在宅におけるお手伝い」が必要なケースにおいては、各家庭のプライバシーを保護しながら、同時にお手伝いが求められる。そこでは、「精神障害者は必要な事以外は行わない」という活動が要求に合致することがある。障害を持っていることを逆転の発想で活用することにより、当事者の自立生活の向上だけでなく、障害者の就労支援や地域社会への貢献といった大きな事柄にもつながるという点に大きな可能性を感じた。

【障害者(支えられる立場)から自立生活へ、更には支える立場、地域社会への貢献へ】

○障害者の就労支援の型としては、単に与えられた仕事や決められた仕事を淡々とこな

すというのではなく、地域社会へ積極的に出て行き、地域のお年寄りや子育てママ等への支えやお手伝いを通じて、各自の持っている"力"を発揮していく、という活動であり、今回の助成事業は、そのための"力"を養うための講習会の実施や当該活動を軌道に乗せるための広報活動(地域向け説明会の開催や広報誌の発行)に対するものであり、先駆的な活動であると思料される。

<助成事業による成果物など>

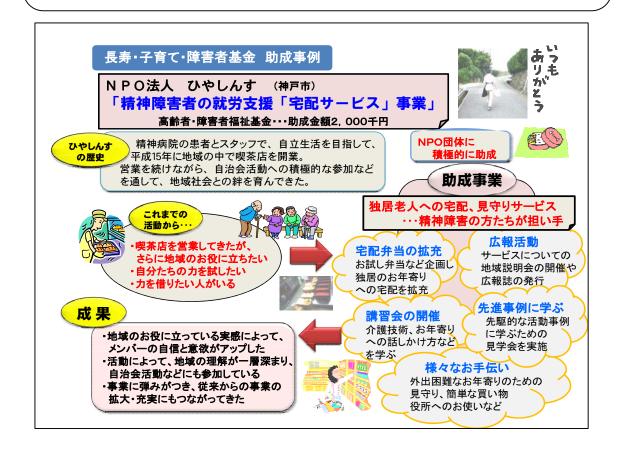
- ○活動写真
- ○会報「ぽてと通信」

(団体の問い合わせ先)

〒651-1201 神戸市北区山田町上谷上古々山29-221カワイケ駅前ビル3F

TEL: 078-581-3796

http://www.hiyashinsu.org/index.html



地方分:高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人 ワークスみらい高知

【就労トレーニングのためのカフェ開設・運営事業】

(助成金額:2,000千円)

<団体による事業の紹介>

カフェを開設し、より実践的な就労トレーニングを実施。交通量の多い市街地での立地により予想を超える来客を得て、多忙な中で障害者が急速に力を付けていきました。5ヶ月目には第一号の一般就労を実現したほか、賃金面においても予想を超える売上により、平均時間給450円程度を実現することができました。地域の店としてしっかり定着し、毎日120名~150名の来客を得ています。

<機構事務局によるコメント>

当団体が運営するカフェに着いて、まず印象に残ったのが、障害者が働いているお店であるにも関わらず、看板やパンフレット等、表に出るものには一切表示されていないこと、来客者が多く、特定の客層に偏らず、年齢層が非常に幅広いことであった。

広報等も含めて「障害者」を表に出さないのは、「障害関係者しか来ない」というような狭い世界に偏るのを避けるため、また障害者でも「出来る」部分に注目することで、 一般社会に伍していこう、という代表の信念に基づいたもの。

代表が成功しているのは、自らも障害者に対しても「出来ることは何か」という部分に注目しており、またそれを実行に移しているからであり、障害があることにより出来ない部分についてもシステム化や機械化することで補い、充分に能力を発揮させていることがうかがえた。

障害者の就労支援の一環として、カフェでの実践等の前にもうワンクッション置いた 学校スタイルのもの(座学、集合研修等による社会人の一般スキル、心構え、応対、パ ソコンなどの基本スキルの習得を目的としたもの)を次の事業として検討しており、こ れも実現すれば非常に意義のあるものになるのではないかと感じた。

「障害者だから」という既定概念自体を取り払ったところから発想がスタートしており、障害者、また現状の制度や環境の中でも「出来ること」に注目すると、これだけの事業を展開し、信頼も集められるものなのだと認識させられた。

カフェとケーキ工場を見学させてもらったが、非常に繁盛し、「また来たい」と思わせるような空間を作り出しており、「障害者」や「福祉」的なものを全く感じさせない。 また、機械化など障害者に対するフォロー体制もしっかりと整備されており、就労支援の模範的な事例として紹介したいと思わせる事業であった。

ただこれは、代表の非凡な経営センスと発想力、行動力によるものも大きく、どの団体でも出来るという事業展開ではないようにも感じられた。

<助成事業による成果物など>

- ○活動写真
- ○チラシ

(団体の問い合わせ先)

〒780-8011 高知県高知市梅の辻9-9

TEL: 088-879-0345

http://www.worksmirai.com/join.html

地方分:高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人 コミュニケーション支援センターふくろう

【高齢聴覚障害者生きがい対策(ミニデイサービス)事業】

(助成金額:1,750千円)

<団体による事業の紹介>

同じ障害を持つ人達の集える場を提供することで、お互いの生活を高め合い、健康や生きがいを維持し、あるいは取り戻して、自立した地域生活へと結びつけることを目的としてミニデイサービスを実施しました。手話でコミュニケーションが可能な支援者とともに、創作活動、社会見学、介護予防体操教室、医療、福祉等をテーマにした情報提供等の取り組みを実施しました。孤独感の解消・健康管理に対する意識の向上等予想以上の効果が得られました。

<機構事務局によるコメント>

手話通訳等については近年多く見られるようになったが、必ずしも情報が聴覚障害者の視点で発信されているものではなく、情報が不十分で地域資源が活用できなかったり、孤独感を持つ聴覚障害者が多かったりという問題意識から、本事業が企画された。当団体は、鳥取県ろうあ団体連合会西部支部という当事者の運動団体が、手話奉仕員養成講習会等の事業を行う中で本団体が設立されたため、本事業は個別支援を考慮した事業展開が丁寧にされている。情報が行き届かず、利用が困難な状況にあり、かつ満足な利用ができない利用者にとってサービス提供の意義は非常に大きい。また本事業は複数年で実施したため、サービス利用者の発掘から利用定着まで十分に実施することができたと考えられる。団体の活動目的の根幹は聴覚障害者の自立生活であるため、サービス提供時に利用者自身も力をつけていけるように健康チェックの習慣化をさせるなどの学習も進めていった。利用者のサービス利用の定着とともに、利用者が欲しい情報を意見だしするなど、利用者の学習意欲を引き出し、利用者の主体性も確立されつつある。引きこもりや孤独になりがちな聴覚障害者にどこに行けば情報を得ることができるのかということを本事業を通し定着させ、自立生活を促した。

実施にあたり、個人情報保護が壁となり、聴覚障害者の掘り起こしにかなり苦慮したという。しかし2年間の助成期間で、ミニデイサービスの定着化を図ることができ、その実績をもって行政との交渉もできるようになった。事業継続のために当事者として何が不足し、何を求めるかというはっきりとしたビジョンを持ち、そのビジョンに対する

中長期的な計画と単年度計画を団体が明確に持っていることによって、この複数年で実施した事業成果の意義は大きい。継続した事業に向けて安定した財源確保や拠点の整備に向けた予算確保に今回の事業の成果がうかがえる。

実際に本年度より、モデル事業として2年間の行政予算の確保ができ、拠点を構える計画が着実に進んでいる。また今後は団体がこれまでの活動を通じて課題としてきた難聴者・中途失聴者と手話をコミュニケーション手段とする聴覚障害者とを分け、それぞれに対応した支援、集団への参加ができない方への訪問支援など支援の個別性にも工夫をこらし、回数を増やすなどより充実させながら実施していく予定である。活動拠点の整備についてもこれまでは聾学校や福祉保健総合センターの一室を使用してきたが、今後は自分たちの活動拠点を設け、利用者のニーズに柔軟に対応が可能となり、安定した事業展開が期待できる。本事業は、東西に広がる鳥取県における県全域を対象に、モデルとして広げていくほか、全国へのモデル的な事業として発展していくことが期待できる。

<助成事業による成果物など>

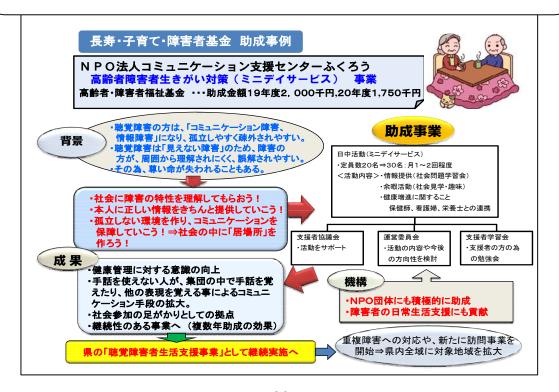
○高齢聴覚障害者生きがい対策(ミニデイサービス)事業報告書

(団体の問い合わせ先)

〒683-0004 鳥取県米子市上福原7-13-1 (鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校内)

TEL: .0859 - 32 - 7338

http://hukuroh-tottori.jp/index.php



地方分:子育て支援基金

子ども夢フォーラム

【パパのための児童虐待抑止啓発講座事業】

(助成金額:2,000千円)

<団体による事業の紹介>

各家庭での子育て環境を整えることを目的に、子どもの声を電話で受けとめ期間中8,100件の受信がありました。それを基に、「パパのための児童虐待抑止啓発講座」を実施し、延べ348名の参加があり、今後も続けてほしいという要望がありました。また、子どもの声を受け止める「受け手」の養成講座を実施し、15名が参加。新たな「受け手」を増員することができました。

<機構事務局によるコメント>

この団体は、平成11年度に設立し、現在までチャイルドラインや児童虐待などの問題に取り組んでいる。また過去に助成金を使った事業が、その後も団体の活動として、継続している。

今回は父親にターゲットを当て、チャイルドライン (子ども専用電話)、講習会、電話の受け手養成講座と、あくまで子どもの視点にたった事業を展開している。評判もよく、講習会に関しては、未婚の男性の参加があることや、行政とも協力して、企業での講習会開催など、企業などと連携して相互的にうまく機能している。更に講習会では、ワークショップ方式を採用している。今年度も引き続き継続して実施している。

しかし、欲を言えば、成果物に子どもの声やワークショップの当日資料等も盛り込むと、この事業の広報・普及の面でも更に有効ではないかと思われる。

団体としてここまで来るのに、およそ10年かかったとはいえ、行政との連携もうまくいっており、今後とても期待が持てる内容である。

子どもの話を聞いているようで、結局大人は自分の考えに当てはめようとしている。 子どもの話に父親が出てこないのは、母親、夫婦コミュニケーションの問題があり、団 体を通して様々なきっかけ作りになりたいと、代表が熱く語っていたのが印象的。

現在失われつつある地域コミュニティの問題解決のための一方法としての側面を持ち、全国的に広く普及してほしい内容であった。

<助成事業による成果物など>

○パパのための児童虐待防止啓発講座アンケート結果報告書

(団体の問い合わせ先)

〒921-8101 石川県金沢市法島町11-8いしかわ子ども交流センター2階

TEL: 076-214-5680

http://www.yumeforum.org/

地方分:子育て支援基金(モデル事業: "ふるさと" ふれあい子育て支援事業)

特定非営利活動法人 うてぃーらみや 【子育ち支援プロジェクト事業】

(助成金額:2,000千円)

<団体による事業の紹介>

子育てにかかわる諸問題を、自然と文化の荒廃に起因すると考え、わらべうたの採集と伝承を通して世代間の交流の場を作ることにより、古来からの子育ての智恵との結びつきを図ります。また、沖縄には子どもの成長を願う事業に伴う伝統おやつがあり、その由来を知り実際におやつ作りを体験することにより、わらべうたとは違う視点から子育て文化の継承を図ります。

<機構事務局によるコメント>

この事業は、当事者である子育て中の母親が、自分たちが子どもの頃伝統であった「子どもを地域全体で育てる」という風土が、現在失われつつあるという現実を、子育てをしながら感じたことで、何かを媒体として、母親達当事者が楽しく、周囲と協力しながら子育てができたらという事を感じたことからはじまった事業である。「わらべうた」は、その短い文章の中に想いがこめられていることに気づき、子どもにとって、一つ一つが短いものなのでなじみやすいだろうという事に気づき、10年以上前から「わらべうた」の収集活動などを始めたのがきっかけである。

法人設立は平成15年。平成17年に当機構の助成を受けて「子育て支援プロジェクト」を行っている。この事業をきっかけとして「わらべうた研究会」発足し、現在も活動を続けている。

今回の事業は、親と子のわらべうた教室、おやつ作り教室、宮古島でのわらべうた採取活動、わらべうたCD付テキストの作成、わらべうた伝承のための守姉講座、出前講座、広報活動、備品整備など、本当に多様な活動を行っている。しかし、どれをとっても、目的がはっきりしており、この助成金額でここまでできるのかと関心させられた。

今回の全ての事業が、新しく始めたと言いきれないものもあるが、既存の事業を一段 拡充させるとともに、特におやつ作りや宮古島でのわらべうた採取等、新しい取り組み も確実に行っている。その中のわらべうた採取活動は、機構の助成を受けているという ことで、地区社協からの協力も得やすかったとのこと。

何よりもすばらしいことは、地方紙に大きく取り上げられ、世界遺産「識名園」での 4日間の「わらべうたフェスタ」をはじめたり、更には、県議会で取り上げられ、県内

の全保育園に「わらべうた」を積極的に取り入れていくことが決定する等、大きな広が りを見せているところである。

会員数も150人を超えており、現在も増加しているが、スタッフ10名は全員無給とのこと。また、現在は収益活動を行っていないため、今後「わらべうた」CD販売等で収益活動を行っていくことが今後の課題だが、団体としては今後は、出向くばかりでなく、拠点作りをしっかり行いたいと目標もはっきり持っている。モデル事業(「ふるさと」ふれあい子育て支援事業)としてフィットした事業である。

<助成事業による成果物など>

- ○趣意書
- ○チラシ
- ○リーフレット
- ○ポスター
- ○「子育ちわらべうた」 CD&詩集
- ○「守姉講座」DVD&テキスト

(団体の問い合わせ先)

〒903-0802 沖縄県那覇市首里大名町1-277

TEL: 098-886-5083